

新潟県

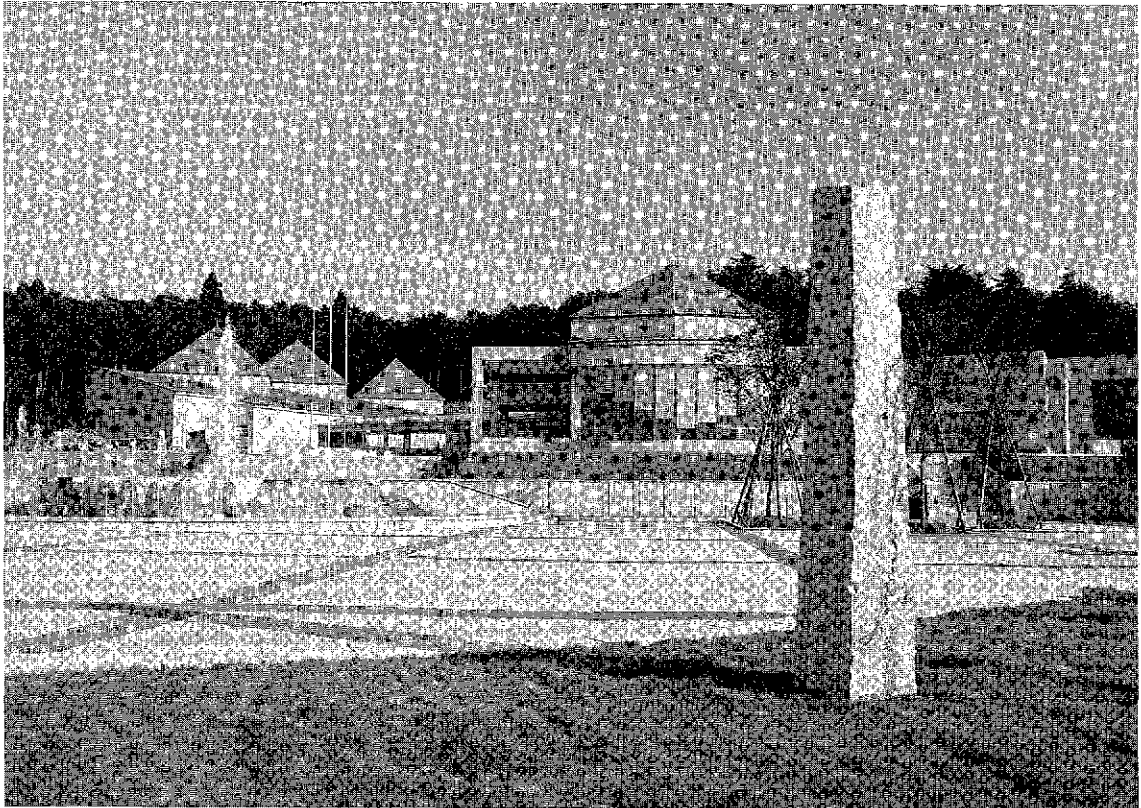
平成6年

公民館月報

11月
第501号

県大会分科会報告

特集 公民館体制の現状と整備の方向 I



地球博物館

フォッサマグナミニ
シアム

糸魚川——静岡構造線
とフォッサマグナやヒス
イ、ナウマン博士に関す
る展示、研究、文献資料の
そろっている博物館で
す。

(写真・資料提供・糸魚川
市中央公民館)

第17回全国公民館研究集会開催

豊かな実践活動の交流で 創造のため、発言し、行動を

秋田市文化会館を主会場に

第17回全国公民館研究集会が秋田市文化会館を主会場にして、去る10月20日(木)、21日(金)の二日間にわたり開催された。

参加者数二千五百名による分科会と全体会は、よく整備され、温かく迎えられた会場で、なかなかうちにも終始真剣に研究討議が展開された。

おける公民館の果たす役割について考えよう」におき、具体的な実践活動の交流で、創造のため、発言をし、行動をしよう」と、各県から積みかさねられた実践や課題を持ちより、十三の分科会に分かれて研究協議がすすめられた。

例年の全国大会をほぼ踏襲した運営や内容であったが、今年度は第十二分科会に「国際理解」をテーマとして取り上げて住民への新たな対応と意気込みがうかがえた。

また、分科会には、それぞれ二人の都道府県からの基調発表があったが、重複を避け、視点を変えた内容であった。できるだけ多くの参加者の要望が充たされるようにと、主管の秋田県公連の行き届いた配慮がよくわかるような運営であった。

また、テーマは「生涯学習社会に対応す

る。公民館のあり方を考える」であったが、分科会の主題の討議の項目を「内容」という表現から「討議の視点」にかえて、より具体的な提示や話し合いができるように考慮されていた点が新鮮であった。

文化性が豊かで、特色のある秋田市の整備された施設が効率的に活かされていた。

また、ターマは「生涯学習社会に対応す

る。公民館のあり方を考える」であったが、分科会の主題の討議の項目を「内容」という表現から「討議の視点」にかえて、より具体的な提示や話し合いができるように考慮されていた点が新鮮であった。

文化性が豊かで、特色のある秋田市の整備された施設が効率的に活かされていた。

また、ターマは「生涯学習社会に対応す

る。公民館のあり方を考える」であったが、分科会の主題の討議の項目を「内容」という表現から「討議の視点」にかえて、より具体的な提示や話し合いができるように考慮されていた点が新鮮であった。

文化性が豊かで、特色のある秋田市の整備された施設が効率的に活かされていた。



運営責任者

基調発表者

また、ターマは「生涯学習社会に対応す

る。公民館のあり方を考える」であったが、分科会の主題の討議の項目を「内容」という表現から「討議の視点」にかえて、より具体的な提示や話し合いができるように考慮されていた点が新鮮であった。

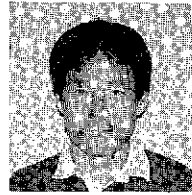
文化性が豊かで、特色のある秋田市の整備された施設が効率的に活かされていた。

研究集会印象記

まちづくりと生涯スポーツ

やはり大切、リーダー養成

聖籠町公民館副館長 中村耕次



今回、初めて「生涯スポーツと公民館活動」を主題とした分科会で二人の実践発表があり、

活動は、町民の健康づくりや交友関係を進める上で大いに役立つし、今後更に取り組みを進めて行きたい。生涯スポーツを進めるうえで、指導者(リーダー)に関する問題が大きい。」など

「(まとめ役)できる人が求められているのではないか」等であった。現在、まちづくりを考えるうえで「生涯スポーツ」は欠かせないものではない。大切なものとなっている。このことは助言者の「スポーツへの意識の変化が深いところまでおきている証拠ではないか。日本人の持つ意識に関係があると思う……」であったこと

視点

懇意にし ていた 月一回の俳句の会に

指導もされる。最近ま 月一回の俳句の会に

時々の様子や活躍した 人のお名前もでてく

国際連合は一九九四 年を国際家族年とし



軸の解説の最中で、辞典や資料に囲まれている。西川の舟運、越後線の開通と駅、耕地整理、戦時中の生活、町村合併、台風と地震などお聞きすると、その

といたわるように声をかけられる。そのタイミングもよく声もあたたかい。金婚式から更に十年という年輪のあたたかきを感じさせる

新潟県文化財 保護指導委員)

金子正

Iさんのこと

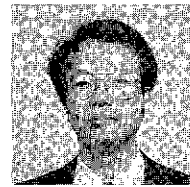
国内的にみても、少

高齢化社会、老人世帯、

仲間づくり

初めての鰻釣り

杵淵 覚



一昨年の八月初旬に寺泊へ船釣りに向った。雨の降る日の午後三時頃、友人

で仕掛けを作るのに手間がかかる。大体この辺は、佐渡と本州の間くらいと船長は言う。三人で一斉に日本海で鰻釣りのスタートとなった。

ひろば

船の回りにやたらとカメラが多くなってきた。友人二人が餌を蒔き始めたようだ。船内には畳敷きの小部屋があったが、友人二人は、苦しくて、がまんしながら釣りに夢中だ。今度来るときは、軍手を持って来ることだ。手の平に鰻の横腹のトゲで無数の傷ができた。夜中の十一時半釣りをやめて、港に向った。この次は友をふやし、公民館活動の町づくりを考えながらイカ釣りに来ようと思う。

湯之谷村公民館 運営審議会委員)

報告 現状と整備の方向 I

(2) 公民館の使用料について
 ○営利要素のある内容の団体には貸館はしないが、社会教育関係団体の使用(公民館講座等を含む)は一切無料という市町村がほとんどである、趣味的な事業に参加する者からは一部負担してもらっている所もある。しかし、最近では公共施設であつても有料になっている所が多くなつ



(1) 生活課題の掘り起こしについて
 ○どこの公民館でも事業の実施については積極的であり、継続的に活動をしているものの、生活の課題の掘り起こしが必ずしも十分でないといわれている。住民の学習内容が趣味、お稽古ごとの域にとどまり、ポラン

ティア活動や地域還元にまで至っていない傾向にあるので、実践例や意見を聞いてみた。
 ・郷土を正しく知ること、郷土を愛することにもなるので大切な啓発活動である。公民館活動はいわば「ふるさと活動」でもある。「地域探検1、2、3」という講座を設け、新興住宅地

それが優良な内容であるかどうかを判断したり、貸館的傾向の善し悪しをいう前に、むしろ施設不足に悩んでいる市町村の実態が報告された。

公民館を借りるサークルや団体の性格にもよる。そして、その性格をどう見分け、分類するかの基準をどこにおくかが問題である。

第二分科会 館長部会
 (非常勤館長①市部)
 司会 小千谷市公民館長 羽鳥昌治 氏

公民館長及び職員の異動が早すぎるというのが大きな悩みである。

はじめに
 去る七月二十九日に行われた県公民館大会は「新しい時代の公民館の在り方を考える」一学習要求に適應する公民館はどうあるべきかを追究する会であつた。
 県大会としては初めて中魚・十日町方式「分科会」を設定して展開された。特色ある午前中の運営で、貴重な多くの発言を得た。
 今月号は、分科会のうち「第一、常勤館長部会」「第二、非常勤館長部会①」「第三、非常勤部会②」「第四、職員部会(市部公民館)」「第七、公運審部会」を紹介する。

(1) 貸館的傾向の問題について
 ○貸館が悪いとは思わない。むしろ、生涯学習社会においては、グループ育成や自主的活動の奨励の過程という意味で、施設をフルに利用した方がよいのではないか。

講座等で材料費などの夫費として三、七、〇〇〇円を徴収して運営している町、高齢者大学では年間七、八、〇〇〇円の自己負担をさせている所もある。ただ、主催事業は無量で、自主グループは有料というところでは、そのギャップが大きいので実施に当たっては慎重を期さな

第一分科会 館長部会
 (常勤館長)
 司会 大和町公民館長 上村邦彦 氏

文化センター内に公民館が同居し、職員も兼務であり、独立してない所も多く、多忙であり悩みも大きい。職員体制の今の増は当分期待できないので、現状の中で、どう工夫していくか考えるしかない。
 ○事業への取組や事業体制を見直している町では「公民館事業の実施に当たっては、なんでもかんでも手をかけ、世話をやき、今までは住民サービスのし過ぎであつたので、たとえ住民に嫌われても、職員に余裕をもたせる必要があるのでは、休養を十分に与える努力をしたところ、公民館勤務を希望する職員が増えた」という報告があつた。(出席者一八名)

第一分科会 館長部会

(常勤館長)

ければならないという意見もあつた。

ある。

県大会分科会 特集 公民館体制の

の多い公民館なので、地域を知
る機会を提供している。また、
市政や事業の節目のいいところ
で「〇〇年の歩み」などの編集
を計画し、なるべく多くの住民
から参加してもらおうようにして
作成している。

・地域の誇りや自慢になる活
動、例えば「おおだこ」を目玉
とした地域づくり。豊かに伝承
されているものを収録した「昔
話・わらべうた・道・橋」のこ
となどをテーマにして、小学5、
6年生を対象にした講座も開
き、根気よくまちづくりをして
いる。また「お年寄りと子供の
集い」では、季節ごとの仕事を
伝え聞かせたり、「縄なし」など



の会も続けている。今様の話題
としては「平成コメ騒動」につ
いて討論会をしてみた。

・「二十一世紀まちづくり」のシ
ンポジウムを行う市がある。

公民館活動は地域主導、市民
主導型をモットーにしているお
り、主事・副主事は地域から出
ている。

これからは、若い職員が公民
館にはいって来ないと住民ニ
ズに答えられないのではない
か。

・婦人が活発に公民館活動を
やっているが、これからは、な
かなか近よってこない中年層の
男性をどうやって引きこんで来
るかが大課題である。

(2) 情報提供について
・「公民館だより」を毎月発行し

ていて、号外的なものは月の中
間に適宜出しているところがか
なりある。「公報〇〇」の中に
扱っている市町村もある。

・「相談事業」としては、市内四
五〇余のサークルがある。何か
やりたい人が公民館に連絡して
くれば、精一杯の紹介をして
いる、などの発表があった。

(出席者八二名)

第三分科会 館長部会

司会 小出町中央公民館長 柳沢 薫 氏

(非常勤館長②町村部)

(1) 現在の公民館の課題について
○公民館長として前向きに努力
していることとして、
予算時には、要求申請をして
いる。職員とは顔を合わせる機
会をできるだけもっている。

町長が公民館に理解があるの
で、運営面で力を入れてくれて
いる。館長や職員も職務を怠ら
ないようにして真意を伝え、公
民館活動がまちづくり、ひとづ
くりの有効なことを理解しても
らう努力を続けることも大切で
ある。

教育委員会と公民館が同じフ
ロアにいたので、外部から問
い合わせがあったとき、その担
当が不在でも、誰もが対応でき
るように、打ち合わせ会を頻繁
にもっている。

職員を超勤させるよりは、非
常勤で職務可能な人を雇用する
ようにしている。

○公民館長の権限について
館長という名前だけで、あて
職のようでは運営上の実質活動の
参加や、予算編成時にも招集さ
れないし、人事面等についての
発言権がない。

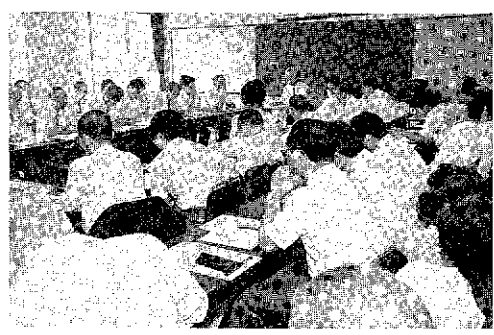
兼務のため業務の明確化がな
されていなくて、責任問題とな
ると教育長との係わり合いや、
副館長との間ですっきりしない
ことがある。公民館に関しては
館長に主体性を持たせてもらい
たい。社会教育課長等に公民館
長を兼ねさせるといふ風潮があ
る。公民館長は非常勤でよいと
いうのでは困る。町行政の人員
整理で、各課の兼務が増え、社

| | |
|-----------------|------|
| ・県内の公民館長の設置状況 | |
| 常勤館長 | 27名 |
| 非常勤 | 118名 |
| ・県内市部の公民館長の設置状況 | |
| 常勤館長 | 13市 |
| (うち専任館長7名) | |
| 非常勤 | 7市 |

会教育指導員でようやく要所を
補充したりしているが、今後の
運営が心配だ。

○勤務について
週三日。毎日午前九時から十
二時まで(契約、自発的にして
いる二種がある)。週一回が基本
だが、決裁をもらう都合で週二
回(月・木の午前中)。週三日と
記念館へ土・日出勤。行事のあ
る度に出ているという館長が多
い。公民館職員との人間関係と、
良い仕事をするためにもほとん
ど毎日出勤している。

○県公連で、平成五年四月一日
の実態調査を踏まえて、単組的
な掛け声だけでは弱いので、各
市町村に働きかけ、大会決議文
を具体的に明示して改善要求を
してもらいたい。(出席者58名)



第七分科会

公運審の活性化を考える

司会 長岡市中央公民館 公運審委員長 石橋 馨氏

この分科会では、①公民館運営審議会(以下公運審という)の形骸化の克服、活性化対策。
②公運審の立場から、公民館の施設設備や職員体制についての問題と対策の二つの視点について協議された。ここでは①の問題のみを紹介する。

(1) 公運審の体制に関する問題

○公運審の構成は12名、うち女性委員はこれまで1名だったが今年から4名となり、しかも副委員長に女性を登用したことが



ら、お互いの立場からの意見が出るようになり会議が活発になった。(全体的に委員数12名は標準的などころ。なお、女性委員は近年増えつつある傾向にあるようである。)

○委員の年齢構成で、とくに青年層を重視し、青年層の公民館館利用、学習活動の活性化を期待している公民館があった。

○会議回数3回前後が圧倒的に多い。ある公民館では、3回分の経費しかないのに、(調査・審議の内容が多いので)今年から委員の自費でさらに2回追加する予定。とにかく、地域の問題点の理解や、公運審委員コミニュケーションを深める見地からも会議回数を多く持つことが活性化の要諦であろう。

○中央館地区館計5公民館のある市では、年間6回の公運審会議のうち一回目は全市規模の合同公運審の会議、後の5回はそれぞれの地区館ごとの公運審会議を実施するなど工夫をこらしている。

(2) 公運審の審議に関する問題

○公運審の審議招集にあたり、あらかじめ審議内容を委員に報告しておくことが効果的である。十日前、一週間前などに報せる公民館があるが、それはきわめて少数で、参加者のうちほとんどは公民館では、会議当日に会場で知るのが実態である。このへんの公民館側の積極性に期待したい。

○生涯学習の推進体制において公民館は拠点施設として位置づけられているが、それは形式だけ。行政は生涯学習の重要性を叫ぶけれども、その割には公民館施設の充実や公審の審議回数等の充実には力を入れていない。この辺のことを声を大にして要求する必要がある。

○ある町では、公民館は1館で地域の公民館活動は40集落の40集落館を5つに分け、その5グループに公運審の委員が出向き、実態はあくのための調査をするともに、地域の課題解決のための意欲を持つような研修を進めている。これによって、委員自身の認識の更改を進めるとともに、小グループの会議が住民の発言を容易にし、地域の課題の掘り起こしなど地区とのパイプ役を果たしており、こう

役立っているとする事例が報告

されていた。
○公運審の運営にマンネリ化の傾向はなかるうか。つまり、十年一日のごとき委員の顔触れ、館長の事業報告と今後の予定を聞くだけで意見をたたかわせようとしな一方の無気力な公運審の会議では、形骸化していると言われてもしかたがない。市民の学習要求のみを調査審議するのでなく、学習必要(必要課題)について、公民館と公運審とが協力して研究討議する中から見付けだすことが、活性化につながる。

○そのためには、公運審委員の個人の力量が問題になる。よって、委員の研修が必要となる。北魚沼郡公運(8町村)では公運審の研修活動を実施しているが、こうした研修は大切。ちなみに、全国的には県レベルの公運審委員研修会が開催されているところが多いが、本県では、県行政も県公運も実施していないが、その必要はないのか。

○公運審の活性化問題は、公民館事業の活性化とは必ずしも同義ではない。公民館の過密な事業、それに伴う職員の超過勤務の実態についても調査・審議することが大切。いま行われている公民館事業の精選について公運委員は声を大にすることが活性化の一つである。

○公運審の活性化のためには、社会教育委員との連携を持つことを提案する。つまり、公運審の役割は、あくまで「館長の諮問に応じ」調査・審議するものである。したがって、公民館長が「諮問し」「答申を尊重する」ことが要諦である。ところが館長は社会教育課長の兼務が多い。(非常勤館長は力を持たない場合が多い)とすれば、行政の視点が強くなり、公民館の問題点解決に積極性を欠くのは業務の弱点であり、公運審に諮問する内容が用意できるのかと疑問を持つ。よって、社会教育委員の会議の中に(社教委の独任制という特性をいかし)公運審の立場や役割を反映していくことができよう。(出席者数二四名)

(3) まとめ

○本日提起された諸提案や要望については、言いつけなし出っばなしにせず、整理し、県及び市町村行政あるいは県公運や全公運等に提起し、問題解決に迫ってほしい。

(第五、第六分科会・主事部会 は、来月号(12月号)で「報告そのII」として掲載します。)

サークル交流

ぬくもりを求めて

三条市中央公民館 英会話サークル

英会話クラスを担当させて頂いて十三年目になりました。ここ数年では各国のお客様をお招きして、レクチャーをして頂いております。主な生徒さんの感想としては、とても親しみを感

じ、彼らの国についてもっと深く識りたいという事でした。年に一回のパーティーと、授業とは別の、このレクチャー、そして彼らが帰国してからの交流を今後も続けていきたいと思っ



ております。会話クラスで心がけていることは、パターン通りの流暢な英語を話すことでなく、誰に対しても常に同じ態度でしかも楽しくコミュニケーションをとれる、つまり、人の心を傷つけない会話の上達を目差していることです。

今年の夏は、八十才の方からお母さんと一緒に小学二年生の方まで幅広い年齢層の方々が共に学びました。ささやかですが、しかし、持続的なこの交流を通して、良き友人をお互いに見つけていただけたらと願っております。

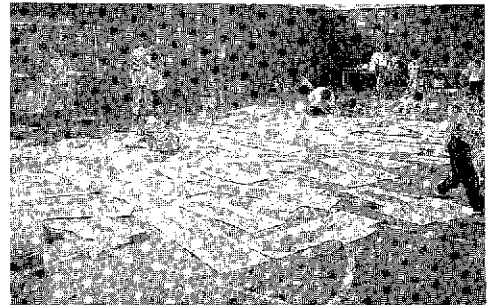
(長屋美智子 記)

仲間と一緒にホップ

ステップ げんき!

Hop Step げんき!

五年前「トラや帽子店コンサート」をこの関川村で開催した時の実行委員のメンバーで誕生したのがHop, Step, げんきです。忙しい毎日の中で、何かこの村の中で出来る楽しい、元気が湧くような催しがあれば家族一揃で、この村で生きる喜びが生まれ、遠くの町まで出向かなくてもいいのにナア、という思いがコンサート



キミ子方式—絵画教室

の成功で一層強くなり、この会が発足したのです。

メンバー達の「やりたい」から出発する、できることを出し合う、子供から大人まで参加できるものをモットーに、まわり

の人みんなにサポートしてもらいながら、コンサートや演劇を企画運営してきました。昨年からは、松本キミ子先生を講師に三原色と白の絵の具だけで誰でも楽しく絵が描けるとい講講座も始めています。完成した作品はどれもいとおしくなるようなものばかりです。今は出来た作品を村の文化祭で大勢の人達に見てもらおうと委員一同奮闘中です。(Hop, Step, げんきメンバー 関川村役場 保健衛生課 近 百合 記)

中里村公民館社会教育主事

江口 登 氏

スピーディーな仕事の処理に定評のある江口登君、企画から実践、反省、そして実践記録の整理と実に手際の良い仕事ぶり、又大変なアイデアマンで企画計画に彼しか考えつかない表現や緻密な計画はすばらしい。そして僕は、仕事を追われることが大嫌いな、仕事を追って行くのだ。この勤務は高く評価できる。仕事ぶりだけでなく、



勤務は高く評価できる。仕事ぶりだけでなく、

日常生活に於いても、よい友達(悩みを話せる友、勉強仲間、赤提灯仲間)をもっており、自分の人生にとって大きな財産ではなからうか。

家庭生活においても、休日には家族のサービスに努め親子のふれ合いを大切にしながら家庭円満に心がけているよきパパである。又ボランティア活動も積極的に地域の青年達と協力し休日などは川の清掃や花いっぱい運動など地域おこしの活動をやっており公私共によき青年である。(中里村公民館長 白倉増之 記)

素顔 拝見

栃尾市公民館主任主事

多田好一 氏

昨年、公民館に配属、現在二年目、市職員の中では中堅だが公民館では若手No.1の職員です。



く。毎朝出勤後、趣味の報告にはじまり、指導と私達初心者を楽しませてくれ、朝のひと時和やかな雰囲気を提供してくれる。最近、やや太りぎみを気にして、自転車を購入し、片道七キロのマイカー通勤から週一回だけでも自転車通勤へと心がけているが、皆が成果を心待ちにしている。体力をつけ、さらに頑張りたい。

彼は事業係として日々、活躍しているが異常な熱意で仕事に取り組み、新しい事業をどんどん開拓していく。彼流に言えば「仕事熱心」、同級生の私流に言えば「ズウズウしく、若者をターゲットにした講座を意識的にも、彼自身も楽しんでいては、ないか、と思っているのだが。また、彼の趣味の多さにも驚

(栃尾市公民館 清水文章子 記)

第 6 回生涯学習推進研究協議会

(通称：公民館全国セミナー) 開催要項



- 1. 主催 財団法人公民館連合会
 - 2. 後援 公民館振興市町村長連盟
 - 3. 期日 平成 7 年 1 月 18 日(金)～20 日(日) (2泊 3 日)
 - 4. 会場 国立オリンピック記念青少年総合センター【宿泊とも】
- 〒151 東京都渋谷区代々木神園町13-1
☎ 03-3467-7201

- 5. 参加者
 - (1) 都道府県及び都ブロックでオビニオンリーダーとして活躍が期待できる者
県またはブロックの公民館連絡組織の役員等
 - (2) 原則として、公民館職員としての経験が3年以上の者
市町村の中央公民館長・専任職員、市の地区公民館長・専任主事
 - (3) 上記(1)、(2)に相当する者で都道府県公連が推薦する者
 - (4) 定員は、50人以内とする。
- 6. 研究主題
生涯学習の推進と公民館事業
—学習ニーズの多様化・高度化と事業・プログラムの開発—
- 7. 研修の内容と講師
 - (1) 特別講義「後藤悟(第28代木村庄之助)(依頼中)」
 - (2) 基調講義①「公民館の活性化と事業・プログラムの開発の視点と手順」
青山学院大学教授 船生動物
 - (3) 基調講義②「公民館の活性化の条件 調査

- 研究レポート
国立教育研究所生涯学習研究部
生涯学習開発・評価研究室長 山本慶裕
- (4) 部会別事例研究【プログラム開発の手順と視点】
 - 第1部会【ボランティア活動に関するプログラム及び場・機会の開発】
 - 第2部会【現代的課題に対応するプログラムの開発】
- 事例提供者
 - ① 「菓箱づくり、自然観察、環境講座、環境教育プログラム開発」
神奈川県藤沢市辻堂公民館 横田順一
② 「おもしろ探検隊等(自然、ゴミ、青少年等)」
大阪府豊中市庄内公民館主事 若井順一郎
- (5) 全体研究【公民館事業・プログラム開発上の課題】
コーディネーター 坂本登
(文部省生涯学習局社会教育官)
- 8. 経費
会期中の宿泊・食事・研修に要する費用は、全額全公連が負担する。旅費等は参加者側の負担とする。
- 9. 修了証
全期間参加した者に対して、全公連会長(後援・公民館振興市町村長連盟会長)が修了証を交付する。
- 10. 参加申込期限
平成 6 年 11 月 21 日(月)までに県公連事務局へ。
(電話025-224-6073)

全公連では、本年度も左記の開催要項のとおり、研究主題「生涯学習の推進と公民館事業—学習ニーズの多様化・高度化と事業・プログラムの開発—」に基いて、公民館の当面する重要課題を協力して研究する参加者を募集しています。適任者をご推薦ください。

公民館全国セミナー(通称)開催

(第六回生涯学習推進研究協議会)

主な催物ご案内

| 期間 | 名称 | 内容 | 場所 | 時間 | 対象・定員 | 参加料など |
|------------------------|-----------------------------|--------------------------|------------|-----------------|---------------------------|---------------------|
| 10月30日(日) 12月4日(日) | 秋の特別展 「むしの世界」 | 昆虫の興味深い不思議な世界を子どもたちに紹介する | 特別展示室 | 9:30 ～16:30 | 入館者全員 | 入館料 |
| 11月25日(金) | 新展示品オープン ハイビジョン、立体映像シアター | ハイビジョンのしくみと立体映像の原理を紹介する | 生活の科学・2階 | 9:30 ～16:30 | 入館者全員 | 入館料 |
| 11月26日(土) | 星空散歩 | 12月の星空をプラネタリウムで散歩します | プラネタリウム・4F | 13:40 ～14:20 | 小学生以上の入館者 210名 | 入館料 |
| 11月27日(日) 12月11日(日) | 家庭のやさしい化学教室 | セッケンを作ります | 実験室 | 9:30 ～12:00 | 2日間続けて参加できる女性(子供の同伴可) 20名 | メ切 11/20 500円 |

※今月の催物の連絡先、申し込み宛先

〒950

・新潟市女池2010-15

新潟県立自然科学館

・電話025-283-3331

深いふしぎな昆虫の世界へのいざない 秋の特別展へどうぞ!

新潟県立自然科学館主催の、十一月、十二月の催し物のうち「見のがすとソーン」「参加しないとソーン」な、創意をこらした、現代っ子の興味をそそるに違いない事業をお知らせします。

科学館としては、長い時間と苦勞をかけて調査し準備した自信ある展示と活動事業なので、大人にも子供にも豊かな夢と創造の心をふくらませるに十分な内容です。ぜひ、今年最後のチャンスを活かしてお出かけください。

他にプラネタリウムは「あこがれの宇宙飛行」を投影しています。

一 投影回数 平日は2回、第2土曜日は3回、日曜・祝日は5回。

二 観覧料 入場料を含めて大人七〇〇円、小・中学生は四〇〇円、幼児は無料(ただし観覧券が必要)

あとがき

◆ 第十七回全国公民館研究会が、今年の公民館と自然の縁りを象徴するように、秋田県で開催されました。あの暑かった、長い夏と秋の初めの日々がうそのような冷涼な気候に恵まれた会でした。

ゆかしい伝統に溢れた秋田市の恵まれた施設と豊かな文化性に満ちた会場やその周辺に魅せられながら、運営面でも、新時代を感じさせ、新機軸が示された展開でした。大会に参加された収入を得られた県内のみならず、お疲れさまでした。

◆ 五〇一号で再出発する月報です。これまで継続して来られた先達の願いである、県公連の役割りとして不可欠な情報整理提供の月報になるように努めます。(鴨井 記)

発行所 新潟県公民館連合会

【新潟市川端町2-9・県林業会館内】
【電話・新潟 (025) 224-6073】

発行人 会長 細川 仁

編集人 事務局長 鴨井 三郎
【定価1部130円 年共・年極1,560円】